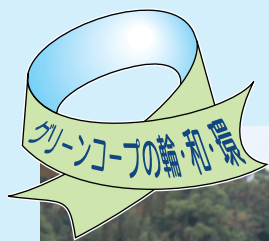




共生の時代

'11
2月

●発行:グリーンコープ共同理事会 ●編集:共生の時代・編集部 ●〒812-8561 福岡市博多区博多駅前一丁目5番1号 カーニープレイス博多4階 TEL092(481)7923 FAX092(481)7876



1942年生まれ、千葉県出身。理学博士。2007年、慶應義塾大学の物理学助教授を退職後、長崎県に転居。妻と二人暮らし。グリーンコープ主催の脱原発学習会の講師を務めるなど関係は深い。グリーンコープ生協(長崎)組合員

プロフィール

晴耕雨読、田舎暮らしは忙しい

グリーンコープ連合顧問

藤田 祐幸 さん

長 崎県は西海市の南側、山と海と川に恵まれた自然豊かな雪浦地区に暮らす。藤田さんが転居先をこの地域に選んだことには理由があった。

1986年、チェルノブイリ原発事故後、放射能汚染調査を行うために現地に何度も足を運んだ。放射能の恐ろしさ、廃墟となった街や村を見た時の絶望感は今でも脳裏から離れない。「原発事故を想定し、日本の中で風上の地をめざして西に向かったらここに辿り着いたんです」と藤田さん。それまでは三浦半島で暮らしていたが、その地域の風上には浜岡原発が5基あり、直下は東海地震の予想震源域だ。震災が起きれば、壊滅的な被害が生じるであろう。また都会での生活では、水・電気・ガスなど管理されている窮屈感、日本の食糧自給率の低下も後押しした。定年まで1年を残し、首都圏からの脱

出を決意した。中学時代は理科少年だった藤田さんは、科学の世界に傾倒していった。「科学は役立つことをめざしているが、そうなる」と学問は世俗にまみれていく。物事の真実を求めるには利害損得があつてはならない。そこで当時はお金にならない物理学を選んだんです。と、ニヤリとする。

大学時代、原子力に関するすべての書物に目を通すが、放射能による被曝問題は何も書かれていない。また、水俣病問題で座り込みをしている患者たちに目が止まり、患者側に立つ科学者がいないことに気付いた。「科学に伴うリスクを科学者は語っていない」と強い不信感を抱く。1979年、アメリカのスリーマイル島で原発事故が起きた。当時は大学で研究をしていたが、「事故の真実を知る科学者は、研究よりそれを市民に伝える義務がある」と市民と共に在ることを選んだ。以後、市民

科学者という重要な役割を担ってきた。国内の原発調査、コソボ、セルビア、ボスニア、イラクの劣化ウラン弾の被害状況と環境汚染調査、放射能測定調査を行ってきた。数々の講演の中で、放射能が人体と環境に及ぼす影響を訴え続けている。

藤田さんの住まいは、山の緑に囲まれた棚田跡にある。大屋根には太陽熱をそのまま利用するOMソーラーが取り付けられている。夏は排熱し、涼しい空気を家の中に取り込み、冬は太陽の熱で家ごと温め、できる限りエネルギーを使わず、自然と人が共生できる家だ。湧水が流れる庭先で畑を耕し、野菜を育てている。時々訪ねてくる村の人に、野菜作りのアドバイスや、お裾分けをいただきながら「都会にはない安心感がここにはある。農業や田舎暮らしのよさをここから発信していければ」と、これからの目論見を笑顔で語る。

2010年度
from ネグロス
クリスマスキャンペーン
ありがとうございました

カンパ総額

9,458,287 円

(1/19現在)



カネシゲファーム・ルーラルキャンパスでの収穫の様子

Contents

～生物多様性は私たちの食と農を守る～
遺伝子組み換えのない世界をめざして

2・3

from ネグロス組合員ツアー報告
遠く離れた地の仲間と出会い
共生と連帯の広がりを実感

4

胃腸炎で2日間寝込んだ。病は本当に辛かったけれど、家族の食事はもっと心配をした。毎晩帰宅が遅い夫と、おやつの間もなく即夕ご飯のタイミングでのみ帰って来る6年生の娘。休日だったら父子二人で力を合わせて食事作りもできるところを、突然の病気はそんなこと構いなしにやってきました。

さてどうしよう……。そうだ、冷蔵庫には開発商品がある！普段は手作りをモットーにしているけれど、できない時も

送 信

ある。これはあの人が開発にかかった商品だから信頼できるし、こっちは私たちがとことんこだわって作ったものだから大丈夫と、どれも安心して家族に食べさせられるものばかり。

助かった。当たり前のように思っていた顔の見える関係に感謝しつつ、子どもの傍らでおかゆをすすめる2日間であった。

グリーンコープ生協くまもと副理事長
赤星 聖美

ちの食と農を守る～ み換えのない わざして

グリーンコープでは、遺伝子組み換え（GM）食品に関して、人や環境に与える計り知れない影響を危惧し、同じ考えを持つ団体と連帯して、「遺伝子組み換え食品いらない！キャンペーン」と共に反対運動を続けています。

2010年11月30日、宮崎大学でのGM綿の試験栽培に関して、グリーンコープ生協みやざき／ストッブGMO宮崎連絡会による「詳しく知ろう！遺伝子組み換え作物」集会が宮崎市で開催されました。みやざきの組合員はじめ、159人が参加しました。

2010年12月14日には、「食と農から生物多様性を考える市民ネットワーク」（MOP5市民ネット）主催による「遺伝子組み換え生物をめぐる国際会議報告集会」が東京都で開催されました。2010年10月に名古屋市で開かれた「生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）／カルタヘナ議定書第5回締約国会議（MOP5）」での成果と課題についての報告がありました。約90人（グリーンコープからは組合員など10人）が参加しました。

宮崎大学の「GM綿の実験栽培」に反対します

詳しく知ろう！遺伝子組み換え作物

2010年11月30日

開会にあたって宮崎県綾町の前田穂町長から「GM作物は作らない」とのメッセージが届けられ、綾豚会・綾菜会のメンバーなど参加者全員が思いを一つにする集会になった。天笠啓祐さんの講演ではGMの現状と問題点など最新の情報が分かりやすく説明された。

日本の現実

日本はGM作物の非栽培国でありながら世界最大の輸入国であり消費国だ。トウモロコシは94%をアメリカからの輸入に頼っているが、アメリカでは全体の作付面積の74%をGMトウモロコシが占めている。綿実（綿花）は93%がオーストラリアからの輸入で、その作付面積の87%がGM綿だ。欧州では食品表示がしっかりとされているためGM食品が流通しないが、日本は食品表示があいまいなため混入率や飼料の表示などが分かりにくい。消費者も知らないうちにGM食品を口にしている。

講演要旨

GM作物とは？
生物が長い進化の過程を経て形成してきた生態系の中での住みわけと、共存のために不可欠な要素が「種の壁」だ。GM技術が品種改良と決定的に違うのは、種の壁を越えて遺伝子のやり取りがされることだ。人の手によって操作され導入された遺伝子は、異なる種の中ではうまく働けないため無理やりに強化される。ある種の植物を枯らす除草剤に対して耐性を持つ作物や殺虫能力を持つ作物など、自然界では生まれようのない生物がGM技術によって次々と生み出されている。

てしまっているのが現実だ。今、起きていること

今回、宮崎大学で実験栽培されているのがGM綿。綿は繊維としてだけではなく綿実油として食卓に上り、さらには家畜の飼料にも使われている。綿の世界三大栽培国であるアメリカ・インド・中国をはじめ、世界で1億4000万と言われる栽培農家のほとんどが既にGM綿を栽培している。そして今、GM作物栽培国では、さまざまな問題が目立ちはじめた。とくに顕著なのが除草剤の使用量の増加だ。除草剤耐性のGM作物の畑には、耐性の雑草がはびこっている。殺虫性GM作物についても、その耐性を持つ新たな害虫が増えたことに伴い、農薬の使用量が増え続けている。インドでは、GM綿を収穫した後の土地に放牧した羊やヤギが大量死したとの報告もある。周辺の生態系さえ変えてしまうGM作物が、栽培農家に経済的な損失をも与えはじめています。

生態系への影響についての懸念

まもなくアメリカではGM綿がFDA（米国食品医薬品局）により承認される予定だ。野生の綿に比べると最大で25倍の体重になるGM綿。繁殖不能にしてはあが成長スピードが早く巨大で獷猛だ。このGM

宮崎大学のGM綿は白い網室の中で育っていた

2010年8月、宮崎大学ではじまったGM綿実験栽培は、宮崎大学とGM作物の開発・種子販売をしているドイツのバイエル・クロップサイエンス社の共同研究で、GM綿とnon-GM綿を比較しながら生物多様性への影響等を評価しようというもの。栽培されているGM綿は、除草剤耐性と殺虫性の二つの性質を併せ持つもので、バイエル社が開発したものだ。2010年5月に申請が出されたこの実験栽培は2012年5月まで続けられる予定。7月には住民説明会も開かれたが、参加者は少なく、呼びかけのチラシも付近のごく一部の世帯に配られるにとどまった。実験が行われている場所はキャンパスの最も奥にあり、周囲を山に囲まれ、約2mのフェンスの中は関係者以外立入禁止になっていた。目の細かな白い網の中のGM綿は、1.5mほどに育ち、中には白い綿毛をつけているものもあった。主に熱帯地方で栽培され、日本ではほとんど栽培されていない綿を、なぜ実験栽培するのだろうか。さらには、宮崎大学が開発したものではないバイエル社のGM綿をなぜ実験栽培するのか。もし汚染事故が起これば、生態系に影響が出て、食の安全性を脅かすことになるのは必至だ。



フェンスに囲まれた宮崎大学GM綿実験圃場。



天笠さんの解説で実験圃場を見学する

の安全性を脅かす事態につながっていく。

問われる安全性

昨年5月にはAAEM（米環境医学学会）がGM食品の即時停止を求める公式見解を示した。免疫システムや生殖・出産、解毒臓器（肝臓・腎臓）を障害することが動物実験で示され、特に3～4世代後の子孫が減少したり、ひ弱になることが明らかにされている。

日本でもこれまでGM技術に関しては、イネを中心にしたさまざまな研究機関で実験が行われてきた。しかし「環境から隔絶した閉鎖状態で行われなければならない」というカルタヘナ法に違反する例も多く、さまざまな管理体制が問題視されている。管理の不十分さから、一度自然界へ放たれた遺伝子を、元に戻すことは不可能だ。汚染事故が起これば、生態系に影響が出たり、食



の安全を脅かしているGM食品。さまざまな生物多様性への悪影響が指摘され、環境への影響や食品としての安全性に不安を持つ声は世界中に広がっている。GM食品の流通を即時停止し、安全性を全面的に見直す時期にきている。

※1 宮崎大学でのGM綿栽培実験に反対する活動のため、昨年10月に設立。2008年に綾町で開催されたGMOフリーゾーン全国集会の実行委員会を母体に、綾町、JA綾町、グリーンコープ産直生産者の綾豚会、綾菜会とグリーンコープ生協みやざきで構成されている。

※2 遺伝子組み換え生物等の使用等の規制による生物の多様性の確保に関する法律

組合員によるアピール



天笠啓祐さん
市民バイオテクノロジー情報室代表。ジャーナリストとして原子力発電、遺伝子操作食品、電磁波など科学技術と社会の関係について積極的な発言を続けている。



～生物多様性は私た

遺伝子組

世界を



上がGM鮭。野生の鮭と比べると、その大きさがよくわかる



活発に意見交換がされ、充実した報告会となった

成果をあげたCOP10・MOP5 遺伝子組み換え生物をめぐる 国際会議報告集会

2010年12月14日

自然の生態系の保護を目的とした生物多様性条約は、1992年に採択、1993年に発効された。

・地球上の多様な生物をその環境とともに保全する。
・生物資源を持続可能であるように利用する。
・遺伝資源の利用から生ずる利益を公平かつ公正に分配する。

という三つの目的を持つている。2年に1回、世界各地で締約国会議が開催され、各国の政策の指針として内容の詳細が検討されてきた。

生物多様性条約の中でも、GM問題は法的拘束力が強いカルタヘナ議定書として2000年に採択、2003年に発効された。これも2年に1回締約国会議が開催されている。

また、名古屋議定書（ABS問題―遺伝資源から生じる利益の公正かつ公平な配分に関する問題）は、名

COP10で何が話しあわれたのか

道家哲平さん（生物多様性市民ネットワーク運営委員）からの報告。

COP10本会議で採択された個別テーマは47種類。なかでも主要なものは、「愛知ターゲット」。生物多様性条約が目標とする「人と自然の共生」を2050年までに実現するための、各国が今後10年間に成すべき事が20項目掲げられている。各国政府や社会が問題の根本原因に対処するための具体方策として、生物多様性に関しての周知の徹底などが内容となっている。



道家さん

MOP5市民ネットのこれからの課題「カルタヘナ国内法改正に向けて」

河田昌東さん、天笠啓祐さん（ともにMOP5市民ネット共同代表）によるパネルディスカッション。

「現在の国内法ではGM作物として規制されるのは、固有種（江戸時代以前からある生物）に限られており、ほとんどの農作物、明治時代以降に入ってきたセイヨウナタネなどは対象とならないなど不備が多い。改定して、本来のカルタヘナ議定書の内容を生かすものとしなければならぬ」と河田さんが発言。天笠さんからは「今回のMOP5で決まった『責任と修復（救済）』に関する名古屋―クアラル

ポールの補足議定書」の内容をどのよう国内法に盛り込んでいくかが大事だ」などの発言があった。

MOP5では、何が決まり、何が決まらなかったのか

講師 天笠啓祐さん

MOP4で合意できずに、カルタヘナ議定書19条のLMO（GMOに細胞融合生物を加えてLMOという規制、27条「責任と修復」の条項は積み残しの課題となっていた。今回、「責任と修復（救済）」に関する名古屋―クアラルポール補足議定書」が採択された。

この補足議定書が成立した要因としては、日本政府の姿勢の変化も大きい。MOP4では、日本が輸入国であるにもかかわらずGM作物の輸出の代弁をしていてと各国から批判された。MOP5での変化は、議長国であることや政権が変わったことも影響している。官僚だけに任せるのではなく、政治家も直接的に関わることを働きかけたロビー活動

も、個々の国の自然保護等には影響はない。しかし、カルタヘナ議定書への不参加は、大きな問題だ」という道家さんからの応答があった。

「この2年近く全国の仲間が市民ネットとして、団

やこの2年間のMOP5市民ネットの精力的な活動の影響も大きい。補足議定書の成果について法的拘束力を持つものとして、全加盟国が合意した。・予防原則が、条約、議定書、補足議定書の全てに貫かれた。
・事業者の範囲にモンサント社など「種子開発企業」も含まれた。
・対象に「持続可能な利用」という表現で農業も入った。
・人も含めてあらゆる生物が対象となる。
補足議定書の問題点について
・各国の対応にゆだねる項目が多く、日本でも国内法の整備が緊急の課題。
・民事賠償規定（補償、修復をどのようにしていくか）に関しては、汚染者負担の原則・無過失責任は最終的には明記されず、5年後の見直しとなった。GMOが問題を起しても、汚染者負担の原則は、負担の大きい立証責任を誰が負うのかなど、補償したくない輸出国と補償を求める輸入国との利害で対立が大きく、補足議定書を成立させることを交換条件としてこの規定から外された。
・資金的保障制度は、責任企業が修復や賠償能力がない場合も想定されることから、保険や基金を輸入の条

件にすることが検討された。しかし、コストアップに繋がるとして輸出国の抵抗が大きく、「各国が資金的補償を求める権利を持つ」とことが明記され「補足議定書MOP1」に先送りとなった。
・LMOの生成物については、輸出国が補償などの範囲が広がるとして抵抗し補足議定書から外された。LMOの生成物とは、GM生物が作り出すタンパク質やアミノ酸などを指すが、議論の過程で「GM生物から作り出される豆腐などの産品」と解釈が変わり、膨大に対象が広がることから補足議定書から外された。
日本での今後の課題
・予防原則は、EU域内法には入っているが、カルタヘナ国内法には入っていない。また、農業や人の健康は国内法には入っていない。国内法における生物多様性影響評価も対象を野生生物のみに限定する等大きな問題がある。環境省の法律でありながら農水省が担当している状況を整理する必要もある。GM作物・GM生物の問題は、耐性害虫や耐性雑草の拡大、野生植物・原生種汚染の拡大など数多い。
今後も積極的にGM問題に取り組んでいく必要がある。

結して活動したことは大きな成果。本会議では、人間の持つている本来的な危機感からとも思うが、各国の代表は生態系の保護のために厳しい姿勢で臨んでいる」と原野好正さん（MOP5市民ネット副代表）から閉会の挨拶があった。

from ネグロス組合員ツアー

遠く離れた地の仲間と出会い 共生と連帯の広がりを実感

ネグロス

「お母さんの聖地に行くんだね」出発前夜の息子の言葉です。大橋成子さんから「民衆交易・バランゴンバナナ」の話を聞いたのは、十数年前になります。「ネグロスの地に行ってみよう」、抱き続けた私の夢でした。

ネグロスに着くとすぐ一面のサトウキビ畑を右に左に見ながら、ATF（オルタートレード・フィリピン）を訪ねました。会長のノルマさんから、24年前のネグロスの砂糖危機からはじまる、グリーンコープとの出会いと歩み、そして、未来への夢を聞ききました。「グリーンコープのみなさん、ネグロスを第二の故郷だと思ってほしい」という言葉に、苦しみ、悲しみをわかちあえた信頼関係を強く実感しました。バナナ生産者の共同農場では、小雨の中バナナの葉っぱを傘にして、栽培や



バナナの花

はじまりの地 ネグロスに感動

グリーンコープ生協（長崎）
野上 ひとみさん

管理のようすを聞きながら、初めて見る「バナナの花」にみんなで感激しました。交流会で将来の夢を語る生産者の言葉や表情は生き生きとしていました。

翌日はマスコバド糖製糖工場、バナナパッキングセンターを見学しました。マスコバド糖製糖工場では、試行錯誤を重ね改善をすすめてこれていました。「グリーンコープは、クレームにも一緒に考えてくれたよ」工場長さんの言葉です。また、バナナパッキングセンターでは、規格外バナナの加工品にも挑戦しています。ネグロスの人々のたくさんの方々と汗が目に浮かぶような時間でした。

カネシゲファーム・ルーラルキャンパスでは、農村の女性たちとの交流会や研修生の青年たちとの出会いもありました。初めこそ、互いに緊張

していましたが、ゲームに歌に踊りにと楽しい一日を過ごしました。言葉は通じなくても、妻として、母として女性として通じあえるものがありました。

「カネシゲパーク」へ続く小道を行くと、風吹きわたる場所に、故重さんのお墓がありました。2本の大きな木がお墓を見守るようにそびえていました。何度もネグロスに足を運び、ネグロスの人々を励まし続けた「重さん」。みんなで手を合わせて偲びました。

出会ったネグロスの人々が私たちにむける眼差しは優しく、心のこもった交流や言葉に胸があたたかくなることが何度もありました。「ネグロスからはじまったんだ」ということを私はネグロスの地で実感しました。ずっと、ずっと忘れたいと思います。



インドネシア



エビ養殖池での収穫体験

インドネシアを組合員ツアーとして訪問するのは、はじめてのことでした。インドネシアにはエコシリンプの生産、製造をしているATINA（オルタートレード・インドネシア）があります。ATINAのみなさんは、エコシリンプとATINAの活動を知ってほしいとさまざまな計画を立て迎えてくれました。エビの養殖池での収穫体験（自然の力を生かした池でエビが元気に跳ね、なかなか捕まえることができませんでした）、エビの加工体験（エビの殻むきと背ワタとりは、意外に難儀しました）。エコシリンプの生産から製造までを体感し、エビの品質に自信や責任を持って生産製造している人たちの話も聞き、エコシリンプが産直に通じる商品と思えました。

せっけんへの取り組みに感動

グリーンコープ生協ふくおか
恵藤 みさきさん

また、ATINAではせっけんを製造し、工場内の手洗いや制服の洗濯にはせっけんを使っています。地域にもせっけんを広める活動をしていて、私たちの訪問に合わせて「せっけんセミナー」が開催されました。住宅地の一角で、ご近所の女性たち約40人が集まっていたセミナーでした。掲示されているパネルは私たちが使っていたものと同じで、「自分自身のために使いはじめたせっけんを未来の環境のために使い続けよう」という言葉には、驚きと同時に感動しました。

今回のツアーでは、遠く離れた土地でも同じ思いで生きている仲間たちと出会い、私たちの共生が豊かに広がり根付いていることを体感できました。

2010年12月の組合員数 406098人 (12/20現在)

2010年11月分

リユース リサイクル データ	牛乳びん 回収本数 777,150本 回収率 99.0% (10月17日～11月13日回収分)
リユースびん 回収本数 184,171本 回収率 65.4%	トレー 回収重量 11,721kg 回収率 49.2%
モールドパック 回収重量 33,820kg 回収率 109.8%	仕分け袋 回収重量 1,422.0kg 回収率 6.5%

フードマイレージ

2010年12月までに組合員の利用によってたまったのは

79,334,869.1
poco
CO₂に換算して7,933トン削減したことになります

アジア民衆基金

2010年12月までに組合員の利用によってたまったのは

13,585,587円

放射能汚染測定結果報告(206)

2010年11月

放射能汚染食品測定室検査。NDは、検出限界値(1ベクレル/kg)以下です。※は、グリーンコープ連合取り扱い商品

	検体名	産地	セシウム134	セシウム137	合計 ベクレル/kg
※	みかん 1kg	福岡県	ND	ND	ND
※	みかん 1kg	福岡県	ND	ND	ND
※	みかん 1kg	熊本県	ND	ND	ND
※	人参	宮崎県	ND	ND	ND

投稿欄

言・い・た・い

わが家のエコ

投稿募集中

- わが家のエコ
- 私の好きなグリーンコープ商品
- 400字程度
- 毎月毎月
- 住所・氏名・年齢・TEL・所属生協名を明記して郵送またはFAX、Eメールでお送りください。掲載分には図書カード(500円分)進呈。
- 住所・氏名などの組合員の個人情報は、本紙に掲載の場合のみ使用します。

〒812-8561
福岡市博多区博多駅前1丁目5-1
カーニオプレイス博多4F
グリーンコープコミュニケーションワーカーズ連(REN)「共生の時代」編集部 宛
FAX 092-481-7876
Eメールアドレス rikoho@greencoop.or.jp

生ごみ処理機で命はめぐる

生ごみ……と聞いて「マイナスなイメージしかなかった。けれど今は「栄養たっぷり!もったいない!」と捨ててしまふなんて!」と思います。その思いの元はわが家にある生ごみ処理機(室内用)です。手動でくるくる回して、生ごみをバクテリアがたつぷりの土と混ぜます。2歳の娘は「まぜまぜするから野菜入れて!」と毎日のように言っています。これも立派な食育だなと感じました。できた肥料をまた土へ還していく。命はめぐる。大切なことを感じさせてくれるエコ。ムリをしないでやられているエコは本当のエコではないとも感じました。

グリーンコープ生協ひろしま 伊地知 早苗